

ヒト孤発性プリオン病患者の確実例における髄液中のバイオマーカーと異常プリオン蛋白試験管内増幅法の解析

研究分担者： 長崎大学・医歯薬学総合研究科・感染分子解析学・佐藤 克也

	14-3-3 蛋白	総タウ蛋白	RT-QUIC 法
感 度	88.9 %	85.3 %	78.9%
特異度	80.9 %	86.2%	98.7 %

孤発性プリオン病確実例109 症例と非プリオン病298 症例における髄液中のバイオマーカーと異常プリオン蛋白試験管内増幅法の解析

解 説

1. 確実例 は109症例に達した。
2. MM2-視床型ではバイオマーカーとRT-QUIC法いずれも陰性であり、髄液診断は困難であると考えられた。
3. 2種類のバイオマーカー・RT-QUIC法の3つとも陽性であったのは72.5%、一方いずれも陰性だったのは6.4%であった。
4. 脳血管障害・橋本脳症を基礎疾患とした症候性けいれん4症例が、偽陽性を示した。高齢者の症候性けいれんでは、髄液検査のみで判断しないように注意を喚起しなければいけない